

(5) 実践事例Ⅱ【「思い」を膨らませ、造形的な視点で捉える見方・考え方を働かせて表現を追求する】

① 題材について

＜題材名＞ だれも見たことのない“まぼろしの花” 第4学年 A表現（2）B鑑賞（1）

＜題材の目標＞

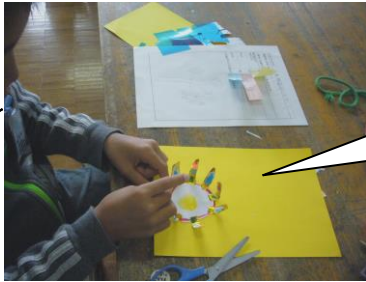
不思議な種から咲く、誰も見たことも聞いたこともないまぼろしの花を、想像を広げて絵に表す。

＜学習内容と活動＞

花は“まぼろし”であるので、児童のイメージの広がりがあるまま作品となります。自分だけの花は、自分にしか咲かせることのできないもので、思いのままに表現してほしいと考え、“まぼろしの花”をつくる前に、種から想像を広げる段階を設定しました。“まぼろしの花”が咲く種に見立てた石の形・色・模様から、どんな芽が出て、どう伸びて、どのように咲くのか、思いや期待を膨らませることにしました。また、児童が「思い」に合った形や色の表し方をしたり、そこから生まれる物語を考えたりすることができるように、アイディアスケッチを基に具体的なイメージを引き出させました。製作途中には、交流活動により、友達の“まぼろしの花”の様子を伝え合いながら、互いの表現の良さや面白さを味わい、発想・構想の能力が働くように工夫しました。

② 題材の実際

過程	時間	主な学習活動	イメージ形成の手立て（・） 言語活動指導上の留意点（◆） 造形的な見方・考え方	題材の評価規準
「思い」を膨らませる	1	○不思議な種から、どんなまぼろしの花が咲くか想像し、アイディアスケッチをかく。	・これから咲く“まぼろしの花”に思いがもてるように、種に見立てた小石の形や色、模様を、想像を広げる契機としました。 ◆「まぼろし」という言葉や種を基に、咲く場所・時期・咲き方・茎や葉・花などの想像を膨らます観点を与え、イメージを引き出すようにしました。	想誰も見たことのない“まぼろしの花”を想像しながら、伸びる芽や花などの表し方を考えている。 【観察・ワークシート】
「思い」を明確にする			種に見立てる	【アイディアスケッチの構想】

「思い」を実現する	2	○“まぼろしの花”を紹介し合い、アイデアスケッチを見直す。 【検証3】 意見交換 ○「種から“まぼろしの花”が芽を出した」と想像しながら表す。  【様々な形や色の台紙を選ぶ】	◆アイデアスケッチについて 形、色、イメージを視点として、友達や先生と話し合ったことや教科書の作品などから見直しをさせました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方 ・台紙の長さや大きさ、色から考えたり、色・模様チャートを参考にしたりして、想像を広げながら表せるようにしました。  【アイデアスケッチを基に表す】	想イメージに合うように台紙を選び、模様紙の色・感じを組み合わせ、表し方を工夫している。 【作品・観察】
	3	○アイデアスケッチを基に表し方の意見を交換し合い、自分の「思い」に合った表し方に生かしながら工夫する。 【検証3】 交流活動 光のような黄色の台紙には花びらには明るい仲間の模様紙を使って。	◆友達の表し方を楽しんで聞き、自分なりの感じ方を言葉にして伝えることにより、表し方の気付きを生むように働き掛けました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方  【友達との交流で「思い」を広げる】	創表したい“まぼろしの花”のイメージに合わせて、形や色の特徴、材料を考えながら、表し方を工夫している。 【作品・観察】 花びらのキラキラは、金色の紙も加えて。 光に誘われて、人が集まってくるように。 指導の実際へ こちらをクリック
「思い」を味わう	4	○自分や友達の“まぼろしの花”の表し方について、鑑賞し合う。	◆自分や友達の花を見て、形や色などに着目しながら発表し合い、互いの作品の良さや面白さを味わうことができました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方	鑑自分や友達の“まぼろしの花”を見て、互いの作品の良さや面白さを味わっている。 【観察・ワークシート】

③ 指導の実際

アイディアスケッチを基に、形や色の特徴について意見交換をし、表現を追求させる工夫

アイディアスケッチ（1／4時）を基に、表したい「思い」、模様紙の使い方、表現方法などについて意見を交換し合いました。意見交換の後、それぞれのアイディアを見直したり、新しい表現を付け加えたりしました。製作途中には、友達の活動を見たり、表現の仕方で困っていることなどを出し合ったりして、悩みを解決したこと、新たに思い付いたことなどを基に更に製作させました。授業の流れは、次の通りです。

（2～3／4時）

過程	学習活動	教師の発問（T） 児童の反応（C） 形 ^{（かたち）} の気づき、色 ^{（いろ）} の気づき、感じ	支援（★）と評価（◇）
紹介する	1. 自分のつくりたい“まぼろしの花”について紹介し合う。 ・どんな花かな。 ・どんな模様や色を使おうかな。	T:自分のつくりたい“まぼろしの花”を紹介し合いましょう。どんな模様紙を使って表したら良いかアイディアを出し合いましょう。 C:深夜2時に咲く花です。甘いフルーツの香りの27枚の花びらを持っています。 C:生き物がたくさん集まってきそう。 C:1枚1枚違う模様紙を花びらにしたらいいと思うよ。 T:アイディアをもらったり、思い付いたりしたことを書き加えておきましょう。	★アイディアスケッチを使い、互いのまぼろしの花について対話をしながら、物語が広がったり、模様紙での具体的な表し方が見つかったりできるように促しました。
まぼろしの特ちょうがわかるつくり方を考えて表そう。			
製作する			
	2. 自分の“まぼろしの花”に合うように、模様紙を使って表す。 南極の氷の上に咲く花だから、下は冷たそうな青。上は氷が溶けないくらいの暖かさのオレンジ色の台紙を組み合わせせた。	【イメージや活動を広げるための本時の板書】 T:自分の表したい“まぼろしの花”の特徴に合わせて、台紙や模様紙の使い方を工夫して表していきましょう。  【イメージに合わせて台紙を選ぶ】	★台紙は形や色、大きさ、長さの違うものを用意しておき、自由に選びながらイメージを広げられるようにしました。

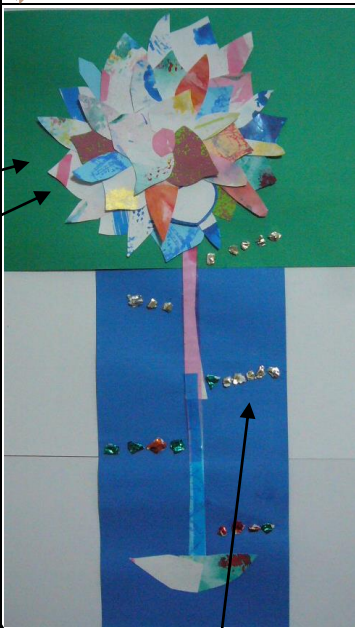
交流する 仕上げる	〈活動を広げるキーワード〉 つなげる・ならべる 組み合わせる 重ねる おる とび出す 3. グループで作品を見せ合い、意見交流する。 〔見る聞くタイム〕  【交流で良さを共有する】 4. 意見交流で得たアイデアや工夫をもとに作品を仕上げる。	 【アイディアスケッチを基に表した作品】 T:自分の想像したまぼろしの花の感じがよく表れるように、形、色、作り方のアイデアを出し合ってみましょう。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方 C:1枚1枚花びらの模様が違うところが良いね。 C:黄色の模様は<u>レモンのにおいが出そう</u>。 C:赤の模様は、<u>イチゴのにおい</u>かな。 C:花びら全部合わせたら、<u>フルーツのにおい</u>になるって面白いね。 C:においが出ているように、<u>周りにほわほわの花びら</u>をつくったら良いかも。 T:アイデアをもらったり、思い付いたりしたことを基に、自分のつくりたいまぼろしの花に近付くように、作品を仕上げていきましょう。  【意見交流を基に工夫を加えた作品】	★作り方のキーワード、模様・色チャートを黒板に掲示しておき、イメージや活動を広げる参考にさせました。 ★活動後半に、材質の違う紙（折り紙セロファン等）を追加し、模様紙と組み合わせて使うことで、発想を刺激するようにしました。 ◇表したい“まぼろしの花”のイメージに合わせて、形や色の特徴、材料を考えながら、表し方を工夫している。 【創】（観察・作品）
-------------------------	--	--	--

④ 考察

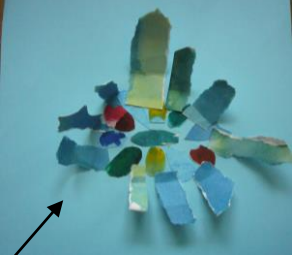
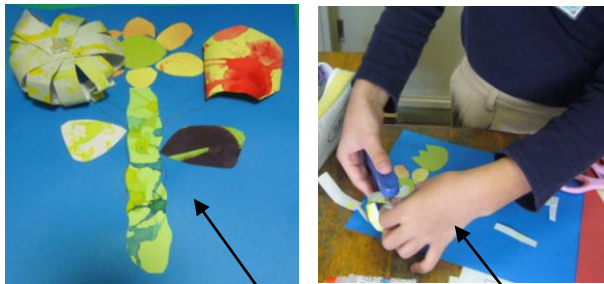
【検証3】交流活動を通してイメージが広がり、自分なりの表現を追求することができたか。

具体的に見取るために、児童のアイディアスケッチや振り返りの記述、作品等を基に、どのようにイメージを広げて表現しているか、抽出児において分析しました。イメージが広がり、自分なりに追求できたかについては、(a) アイディアスケッチの内容を忠実に表現しようとしたか、(b) 製作途中の「見る聞くタイム」での交流活動で得た表現方法をどのように取り入れたかを、作品から見取りました。

(a) アイディアスケッチ後の意見交換を基に、自分なりの表現を追求する

アイディアスケッチ		意見交換の様子	出来上がった作品
		B児:50年に1度しか咲かない花です。 種から芽を出し50分後に咲きます。 C:すごい。ほんとにまぼろしの花ね。 B児:夜に一瞬咲く、優しい花にしたい。 C:台紙は暗い色にして、花びらを優しい 仲間の模様紙にしたら、目立つね。 C:50年も力をため ているから、<u>いろ いろな模様や形の 花びら</u>にしたら面 白いかも。 B児:ああ、いいね。	
【アイディアスケッチ (B児)】		【意見交換後のスケッチ】	
《B児の活動・作品による分析》 意見交換では、B児は、表したい「思い」を伝え、友達から模様紙の生かし方や表現方法等についてアイディアをもらっていました。意見交換の後、B児は、アイディアスケッチの<u>花びらの部分と周りのきらきら</u>を具体的に描き加えています。これは、友達との対話によって、自分の「思い」を見直し、新しく思い付いたことを付け加え、イメージを具現化できた姿だと捉えます。その後の製作につなげていました。			

(b) 製作途中の〔見る聞くタイム〕での交流活動を通して、自分なりの表現を追求する

D児の作品	作品名	D児との交流後の作品と《振り返り》	
	天空に咲く まぼろしの「バリア花」		【E児の作品】 《振り返り》自分の身を自分で守る花にしたいと思った。天空に咲く花だから、<u>空をイメージする水色の台紙と透明の感じの青の花にした</u>。Dさんの花びらの工夫がいいと思って、<u>花びらを増やし、しぼんだり開いたりできるようにした</u>。
	動物たちが暮らせる まぼろしの「へや花」		【F児の作品と活動の様子】 《振り返り》花の中が部屋になっていて、人間には見えないようにつくるのをどうしようか迷っていたけど、<u>友達の工夫を知って、花びらの先をステプラーで止めた</u>。冬に咲く花だから、<u>台紙は青で、花は温かい色を使った</u>。〇〇さんに「すごい。その中に虫が入りそう」とほめてもらった。

《E児・F児の作品と振り返りによる分析》

D児の花びらの表現方法を参考に、E児は、バリアの部分の花びらの開閉で表現することを思い付いています。花びらが開いていると「安全」、少し閉じると「警戒」、閉じると「バリアが働く」と想像し、イメージを膨らませながら、自分の身を守るという特徴を表していきました。

F児は、D児の立てた花びらの表現方法を基に、先をまとめて中に空間をつくるという方法を思い付きました。外の世界は寒さを感じる青、花は温かさを感じる黄色を使って対照的に表し、動物たちが楽しく暮らせる花を表現しています。

E児とF児共に、D児の表現の工夫を取り入れています。それを自分なりの表したい「思い」に近付くようにイメージを膨らませ、模倣ではない自分なりの表現方法を思考して作り上げている姿が分かります。

アイディアスケッチによる意見交換や製作中の交流活動では、友達との関わりを通して、物語性を持ちイメージを広げる姿が見られました。また、互いの表現の良さや面白さを味わう中で、自分の「思い」に合った表し方に生かしたり、新たに気付いたりして、発想・構想の能力を働かせて製作する姿も見られました。

4／4時の学習の振り返りで、「自分のイメージ通りに作れたか」について聞いたところ、できたと回答した児童が27名（約90%）いました。ほとんどの児童が自分の「思い」を基に、自分なりに工夫して表現を追求できたと実感している様子が見られました。

その支えとなっていたのは、**実践1**で獲得した模様や色への気付きを基にした造形的な視点で捉える見方・考え方でした。

表1は、題材を通した学習の振り返りにおいて、製作する時にイメージに近付ける時に大事にしたところを聞いたものです。児童は、模様（形）や色の特徴や組み合わせ、そこから受ける感じを手掛かりにして思考しながら、自分の「思い」に合った表し方を見付けて製作につなげていったと考えられます。

表1 4／4時における学習の振り返り（4年1組30名）

“まぼろしの花”をイメージに近付ける時に大事にしたところ (全30人複数回答可)		
分析的な 見方・考え方	模様や色の特徴	23人(77%)
	模様や色の組み合わせ	25人(83%)
総合的な 見方・考え方	模様や色から受ける感じ	27人(90%)